

(証券コード: 4118)

株主のみなさまへ

第91期 中間報告書

平成 26 年 4 月 1 日 - 平成 26 年 9 月 30 日

株式会社 **力ネカ**

kaneka

もっと、驚く、みらいへ。



「カネカブランド」 価値最大化に向け、 新製品や海外を伸ばす

株主のみなさまにおかれましては、平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

カネカグループは、今年度新たな中期経営計画を立ち上げ、2016年度の売上高7,000億円という目標に向かって走り出しています。

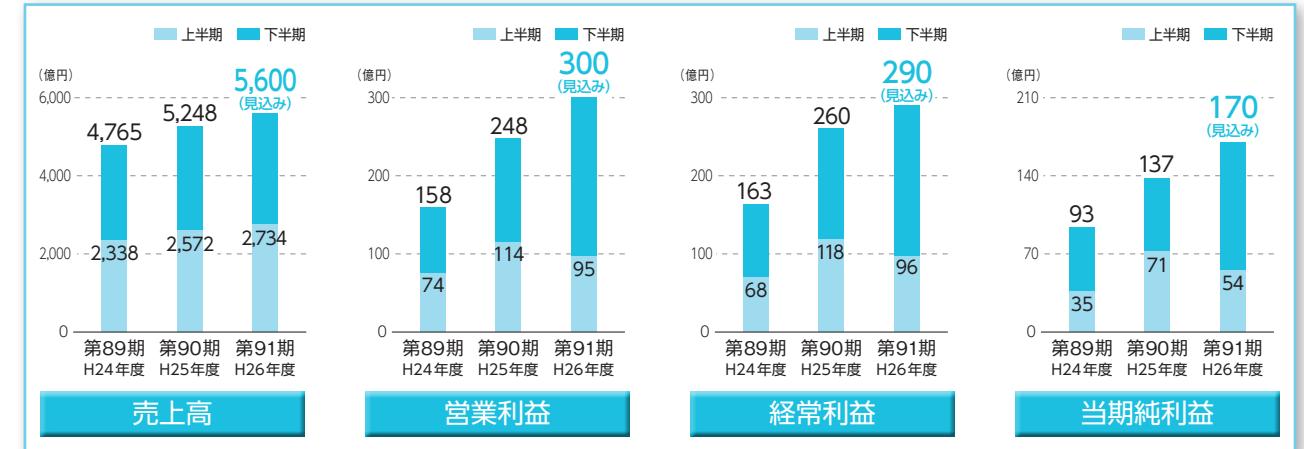
この新たな中期経営計画について、以下ご説明いたします。

代表取締役 社長 **角倉 護**

原料価格上昇などの影響を受け、増収ながら減益に

——ここまでの業績はいかがでしたか？

上半期(第2四半期連結累計期間)のカネカグループの業績は、売上高は2,734億円と前年同期比6.3%の増収ながら、営業利益は95億円と前年同期比16.5%の減益、四半期純利益は54億円と前年同期比



23.1%の減益となりました。ほとんどの事業は増収となったものの、化成品事業、発泡樹脂製品事業、食品事業、エレクトロニクス事業が、原料価格上昇や消費増税の反動の影響を受け減益となったためです。下半期は、一段の円安の進行、原料価格の下落、わが国の住宅関連需要の回復、当社海外事業の拡大、新製品の拡販など、事業環境の好転を背景に事業収益は大幅に改善すると考えております。

なお、中間配当金につきましては、1株につき8円とさせていただきます。

ライフサイエンスとエレクトロニクスを更なる成長ステージへ

——社長就任から半年が過ぎました。

社長としての責任と任務の重さをひしひしと感じていますが、長期経営ビジョンの最終年度となる2020年度に向け、持続的な事業基盤を作ることが私の社長としての責務。変革という容易ではない課題を成し遂げ、10年後、15年後にもカネカが隆々としているよう将来の布石を作っておくのが、私の“仕事”だと思っています。

——本年度から始まった中期経営計画について教えてください。

2014年度から3年間の計画で、連結売上高を7,000億円、各セグメントの売上高を1,000億円規模に引き上げていきます。長期経営ビジョン「KANECA UNITED宣言」で掲げる、2020年度連結売上高1兆円に向けた中間目標、という位置付けで、1,000億円規模のM&A資金枠も用意しました。

食品事業や化成品事業は既に売上高1,000億円を超え、機能性樹脂事業も近い規模になりましたので、次はライフサイエンス事業とエレクトロニクス事業に特に力を入れます。

——ライフサイエンス事業ではどのようなことを？

バイオ医薬の受託事業を米国で本格的に展開していきます。子会社のユーロジェンテック社が、米国内に研究試薬を販売するグループ会社を持っているので、その拠点を活用していく予定です。他にも医療機器の海外売上高を伸ばします。PTAバルーンカテーテルに関し、テルモ株式会社と提携を始めたのもそのひとつです。



PTAバルーンカテーテル

——エレクトロニクス事業では？

社内に蓄積されている技術のシーズを活かします。当社が開発を進めている有機EL照明パネルの基盤技術は、太陽電池と同じ「薄膜蒸着技術」。社内に20年以上の蓄積があります。また、5月に発表した「世界初の複屈折ゼロの光学フィルム」も、もともと機能性樹脂事業が持っていた技術の応用です。



有機EL照明パネル

——M&A資金枠の用途については？

機能性樹脂事業やライフサイエンス事業を中心に検討していきます。ライフサイエンス事業では、バイオ医薬が候補のひとつ。また、医療機器の米国展開に向け、パートナーがいれば、と思っています。最大の目的は、海外マーケットへのアクセス獲得です。

誰からも「グッドカンパニー」と評価される会社へ

——他社にはない、カネカの強みとは何でしょうか？

技術や人材の多様性です。いろいろと事業をやり過ぎではないか、と言われてたりもしますが、逆に言えば、社内リソースの組み合わせ次第で様々な展開が可能ということですので。

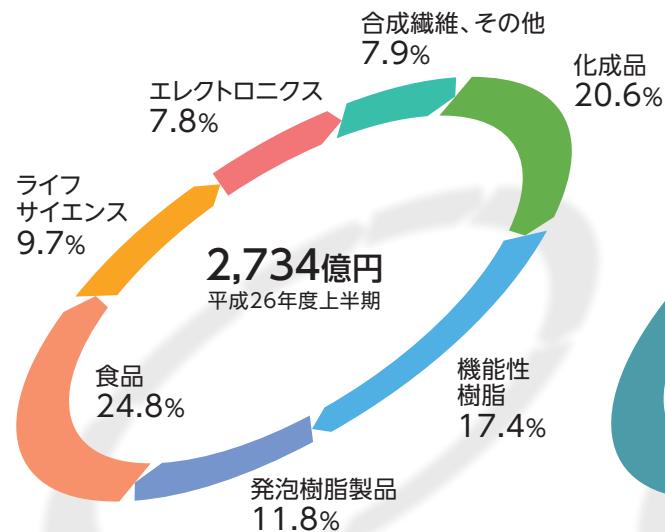
ただ、大きく飛躍するためには、従業員一人ひとりが“固定観念”という壁を乗り越えないといけません。

私は最近社内で、「カネカブランド」という言葉をよく使っています。ブランドとは詰まるところ、人と技術への信頼。品質が良いだけではモノは売れません。数ある競合の中から当社を選んでいただけるよう、従業員とともに「カネカブランド」の価値を最大化したいと思います。

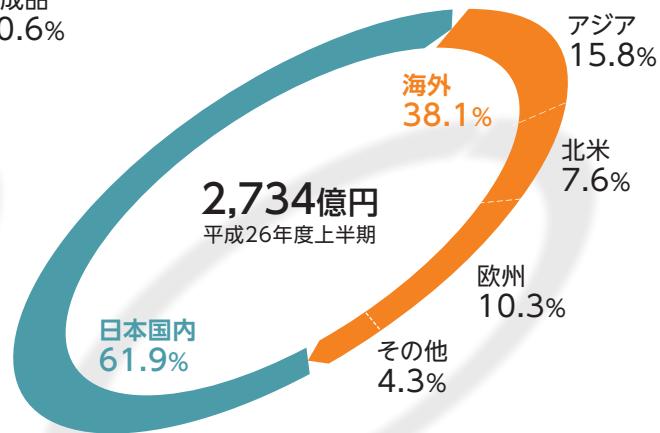
そして、「この会社に勤めて良かった」と従業員が感じられ、社会から見ても「グッドカンパニー」と評価される会社になることが、私の目指すゴールです。



事業別売上高構成比



地域別売上高構成比



※グラフの比率は表示単位未満を四捨五入しています。

化成品事業

主要製品 塩化ビニール樹脂、塩ビコンパウンド、か性ソーダ、塩化物、塩ビ系特殊樹脂

塩化ビニール樹脂につきましては、国内・海外向け販売が低調に推移するなか、原料価格上昇の影響も強く受けました。塩ビ系特殊樹脂につきましては、国内販売が堅調に推移しました。か性ソーダにつきましては、国内販売量が増加しました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を上回りましたが、利益は下回りました。



耐熱カネビニール®: 塩化ビニール樹脂の優れた機能を保持しながら、高い耐熱性をプラスした樹脂です。

機能性樹脂事業

主要製品 モディファイヤー、変成シリコンポリマー、耐候性MMA系フィルム

モディファイヤーにつきましては、製品差別化力の向上、コストダウンなどの収益体質強化に注力し、主に海外市場で事業拡大が進みました。特にシェア拡大に取り組んだ欧米市場の販売量が増加しました。変成シリコンポリマーにつきましては、オンリーワン製品としてユニークな品質特性への評価が高く、国内市場・海外市場ともに、順調に販売が拡大しました。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を上回りました。



カネエース®MX: エポキシ樹脂にナノサイズのコアシェルゴムを高濃度に配合させた改質剤で、自動車の構造接着剤、航空機の炭素繊維複合材に使用され、強硬化や軽量化に貢献しています。

発泡樹脂製品事業

主要製品 発泡スチレン樹脂・成型品、押出發泡ポリスチレンボード、ビーズ法発泡ポリオレフィン

発泡スチレン樹脂・成型品と押出發泡ポリスチレンボードにつきましては、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあり需要が低調に推移しましたが、原料価格の上昇に対応して販売価格の修正を図るとともに、製造コストダウンに取り組みました。ビーズ法発泡ポリオレフィンにつきましては、海外市場を中心に販売量が増加しました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を上回りましたが、利益は下回りました。



エペラン®: ビーズ法による発泡ポリエチレンで、自由でユニークな包装設計が可能です。

食品事業

主要製品 マーガリン、ショートニング、高級製菓用油脂、パン酵母、香辛料

当事業につきましては、食の多様化に対応し、ニーズを先取りした新製品の拡販に努めましたが、国内需要の伸び悩みと低価格志向が継続するなかで原料価格上昇の影響を強く受けました。また販売物流システム更新など販売供給体制の整備に伴う一時的な経費も増加しました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を上回りましたが、利益は下回りました。



ベルコ®: 風味のよさ、口どけのよさも大きな特長であるチョコレート用油脂です。

ライフサイエンス事業

主要製品 医療機器、医薬品(バルク・中間体)、機能性食品素材

医療機器につきましては、血液浄化システム、インターベンション事業とも、国内外の販売が順調に拡大しました。医薬中間体につきましては、販売量が増加するとともに、API(医薬品としての有効成分を有する原体)が順調に推移しました。機能性食品素材につきましては、サプリメント市場における還元型コエンザイムQ10のヘルスケア効果の認知が着実に進み、需要が拡大して販売量が増加しました。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を上回りました。



カネカQH™:世界に先駆けて還元型コエンザイムQ10のバルク、ソフトカプセルの安定化技術開発に成功しました。

エレクトロニクス事業

主要製品 超耐熱ポリイミドフィルム、光学材料、超高熱伝導グラファイトシート、複合磁性材料、太陽電池

光学材料につきましては、需要が順調に拡大し販売量が増加しました。超耐熱ポリイミドフィルムにつきましては、エレクトロニクス製品市場で新製品向けの部材調達も一服し、調整局面に入った影響で、低調な販売となりました。また、超高熱伝導グラファイトシートにつきましても、競争の激化が続き低調に推移しました。太陽電池につきましては、消費税率引上げ後の住宅着工戸数の大幅な減少という厳しい環境にありましたが、事業構造改革を進め採算は改善しました。当社の太陽電池は、住宅向けに美観と性能を併せ持つ極めてユニークな建材製品として市場認知が広がっております。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を下回り、採算割れとなりました。



瓦一体型太陽電池VISOLA®:ダーク系の色味で、複雑な屋根にも美しく設置できます。

合成繊維、その他事業

主要製品 アクリル系合成繊維(カネカロン)

合成繊維につきましては、アフリカ市場での頭髮分野を筆頭に当社の高品質、ブランド力による更なる拡販を進めるとともに、コストダウンなどの収益改善策に注力しました。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を上回りました。



Kanekalon®(カネカロン):人毛に似た風合いを生かし、ヘアウィッグ、ドールヘアーに広く使われています。

四半期連結貸借対照表(要約)

(単位:億円)

科目	第91期	第90期
	平成26年9月30日現在	平成26年3月31日現在
資産		
流動資産	2,607	2,564
固定資産	2,767	2,637
資産合計	5,374	5,201
負債		
流動負債	1,680	1,622
固定負債	802	728
負債合計	2,482	2,350
純資産		
株主資本	2,663	2,668
その他	229	183
純資産合計	2,892	2,851
負債純資産合計	5,374	5,201

Point

- 総資産は、前連結会計年度末に比べ172億円増加し、5,374億円となりました。
- 有利子負債残高は、81億円増加し、1,089億円となりました。
- 純資産は、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の増加等により、40億円増加し、2,892億円となりました。

四半期連結損益計算書(要約)

(単位:億円)

科目	第91期	第90期
	平成26年4月1日から平成26年9月30日まで	平成25年4月1日から平成25年9月30日まで
売上高	2,734	2,572
営業利益	95	114
経常利益	96	118
税金等調整前四半期純利益	91	106
四半期純利益	54	71

Point

- 売上高は、前年同期に対して162億円の増収となり、過去最高となりました。
- 利益は、前年同期に対して営業利益で19億円、経常利益で22億円、四半期純利益で16億円の、それぞれ減益となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:億円)

科目	第91期	第90期
	平成26年4月1日から平成26年9月30日まで	平成25年4月1日から平成25年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	111	219
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 199	△ 159
財務活動によるキャッシュ・フロー	40	△ 31
現金及び現金同等物の四半期末残高	289	350

Point

- 営業活動による資金の増加は、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により111億円となりました。
- 投資活動による資金の支出は、有形固定資産の取得による支出等により199億円となりました。
- 財務活動による資金の収入は、借入の実施による収入等により40億円となりました。
- この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、289億円となりました。

※詳細の情報をお知りになりたい方は、当社WEBサイトをご覧ください。

カネカ IR

検索

未来をつなぐ

有機EL照明パネルが博物館などに採用、いよいよ普及期に

国内の大規模な展覧会に、当社が製造販売している有機EL照明パネルが相次ぎ採用されています。

面で照らすため影ができにくいことや、熱や紫外線で大事な文化財を傷めないことなどが評価されたためです。

9月には、寿命を大きく伸ばした新製品も発売。美術館や博物館のみならず、商業施設やホテルなどへも積極的に販促を進めています。

柔らかな光に高評価、寿命3倍の新製品も登場

有機EL照明とは、有機化合物から成る発光ダイオードを面に集積した照明機器。白熱灯のような柔らかで雰囲気のある光が特長で、①薄く軽いためデザインの自由度が高い②面発光で影ができにくい③ほとんど発熱せず、文化財を傷める紫外線なども出さない④消費電力が少ない、といったメリットがあります。

当社は2010年に、白色有機ELパネルの量産設備を獲得し、この市場に参入しました。2011年より、演出・展示照明を中心に事業を展開しています。

今年になってからは、東京国立、京都国立、九州国立の各博物館で行われた大規模展覧会で当社の有機EL照明パネルが使われ、持ち前の柔らかな光で美術品を包み込みました。その薄さから美術品を入れるケースもコンパクトにでき、より近い距離から作品をご鑑賞いただけることも好評を博しました。

さらに9月から発売した新製品は、寿命を従来の約3倍に伸ばした上、長時間使っても色変化が起こりにくくなっています。今後は従来の演出・展示照明以外でも普及を進め、2020年には売上高500億円を目指す方針です。



当社の有機EL照明パネルが採用された、京都国立博物館特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」の様子

KEY PERSON

開発者の声

株式会社カネカ 新規事業開発部
有機EL市場開発グループ
グループリーダー 吉田 龍史



今回、国宝「鳥獣人物戯画」を照らす照明として、当社の有機EL照明パネルを使って頂きました。

紙に墨で描かれた繊細な絵巻を守るために室内の照明を落とさねばならない一方で、「鳥獣人物戯画」をしっかりとご鑑賞頂くには、近くから光を当てねばなりません。展示ケース内の限られたスペースの中に如何に照明パネルを配置し、如何に絵巻を美しく均一に照らすか。照明家・豊久氏のお力も借りシミュレーションを実施し、実際の照射実験も重ねた結果、パネルの改良が必要、という結論に至りました。

改良パネルを限られた時間で作り上げたのは、有機ELの研究開発・製造を受け持つ子会社、株式会社OLED青森。“国宝を照らす照明を創る”という強いモチベーションで、短期間での納入を実現してくれました。

この次世代光源が、街のあちこちで見かけられるよう、これからも開発活動をして参ります。

カネカの“絆”（つなぐ）とは…

当社は「もっと、驚く、みらいへ。」のコンセプトの下、「未来をつなぐ」「世界をつなぐ」「価値をつなぐ」「革新をつなぐ」「人をつなぐ」の5つの“絆（つなぐ）”を、目指す企業像としています。

Close up

“光の芸術家”
美しい
光文化の創造

照明家 豊久 将三



新たな照明光源の発展は、その都度人々の生活を豊かにしてきました。また光は豊かさと同時に根源的な美を感じる大切な文化的側面も持っています。

例えば谷崎潤一郎の「陰影礼賛」で表現されている光の室礼は美しさと豊かさを同時に感じることが出来ます。面で発光する有機ELは、照明デザインを行う立場からは、今までのどの光源とも違う存在です。薄く、軽く、面で均一に光り熱もそれほど出ません。そして、色温度が低い光（いわゆるローソクの炎に見られるような温かい色の光）においてカネカの有機ELは特に美しく光ります。このことは、東洋美術作品を収蔵する日本の国立博物館が採用しはじめていることから納得出来ます。昼間のオフィスの光も、蛍光灯の時代の青白い光から落ち着いた温かい色の光に変わってきていたり、住宅やホテル、レストランは、昔から世界的に温かい光を好みます。

2020年の東京オリンピックに向けてこの有機ELが新たな光の文化として多くの場面で世界に向けて広く普及してゆくことと思います。

■ プロフィール

ニューヨーク近代美術館での「CONTEMPORARY JAPANESE TEXTILES」展における光ファイバーを使用した照明で世界的な評価を得る。現在までに、東京国立博物館・法隆寺宝物館、セントルイス美術館、モントリオール現代美術館など数多くの照明を手がける。

平成26年9月30日現在

4月

- 動物用タンパク質医薬品の開発を本格化

5月

- 京都大学IPS細胞研究所との共同研究契約を締結
- 米テルモBCT社とコラボレーション契約を締結

6月

7月

- 科学技術振興機構が植物由来生分解性樹脂製造技術開発の成功を認定

8月

9月

- 科学技術振興機構が「羊膜由来間葉系幹細胞の細胞製剤化と治療応用」を産学共同実用化開発事業に採択

世界初ゼロ・ゼロ複屈折光学アクリルフィルムを実用化

当社は、慶應義塾大学の小池康博教授及び日東樹脂工業㈱(樋口榮三郎社長、東京都品川区)との共同開発を行ってまいりましたが、当社独自のポリマー分子設計技術及び押出フィルム生産技術により、このたび世界で初めて実用物性を兼ね備えた押出法による『ゼロ・ゼロ複屈折光学アクリルフィルム』の開発に成功しました。『ゼロ・ゼロ複屈折光学アクリルフィルム』は、今後4K2K・8K4Kへ向かう高精細高画質・低消費電力の各種ディスプレイの実現に、大いに寄与すると考えています。この用途で2016年に売上高200億円を目指します。



ゼロ・ゼロ複屈折光学アクリルフィルム

カネカロン協賛「メディカルビューティーラウンジ」が岡山大学病院内にオープン CSR

当社カネカロン事業部では「ヘアウェアビューティープログラム(社団法人HWBP)」に協賛しています。この活動は、主にガン治療の副作用による脱毛に悩む患者様にウィッグなどのヘアファッションを通じて活力を取り戻してもらおうと2010年から取り組まれているものです。

このHWBP活動の一環として、岡山大学病院内にサロン「メディカルビューティーラウンジ」を8月にオープンしました。同サロンでは、カットやカラーはもちろん、病気による外見変化や体調回復に役立つ美容メニュー、さらにウィッグなどの製品によるリカバリーケアを提供しています。

特にカネカロンを使った医療ウィッグは、患者様一人ひとりに合わせたカットやスタイリングを提供でき、ファッション性に富むことから利用者の精神面でのサポートも期待されています。



ラウンジ内にはカネカロンを使った医療ウィッグを展示

国内ネットワーク

化成品	■ 昭和化成工業(株)	■ 龍田化学(株)	■ サンビック(株)	
機能性樹脂	■ セメダイン(株)			
発泡樹脂製品	■ カネカ北海道スチロール(株)	■ カネカ東北スチロール(株)	■ カネカ関東スチロール(株)	■ カネカ中部スチロール(株)
	■ カネカ西日本スチロール(株)	■ 関東スチレン(株)	■ (株)羽根	■ 玉井化成(株)
	■ 高知スチロール(株)	■ カネカフォームプラスチック(株)	■ カネカケンテック(株)	■ 北海道カネライト(株)
	■ 九州カネライト(株)	■ 三和化成工業(株)	■ イビデン樹脂(株)	■ (株)イーピーイ
食品	■ カネカ食品(株)	■ (株)カネカフード	■ (株)東京カネカフード	■ (株)カネカサンスパイス
	■ 太陽油脂(株)	■ 新化食品(株)	■ 長島食品(株)	
ライフサイエンス	■ (株)カネカメディックス	■ (株)大阪合成有機化学研究所	■ (株)リバーセイコー	■ ユアヘルスケア(株)
エレクトロニクス	■ 栃木カネカ(株)	■ カネカソーラーテック(株)	■ (株)ソーラーサーキットの家	■ (株)ヴィーネックス
	■ カネカソーラー販売(株)	■ OLED青森(株)		
合成繊維、その他	■ (株)カネカ高砂サービスセンター	■ カネカ保険センター(株)		

海外ネットワーク

ヨーロッパ	■ カネカベルギーN.V.	■ カネカファーマヨーロッパN.V.	■ ユーロジェンテックS.A.
	■ カネカモディファイヤーズドイチュラントGmbH		
アメリカ	■ カネカアメリカズホールディングInc.	■ カネカノースアメリカLLC	■ カネカファーマアメリカLLC
アジア/オセアニア	■ カネカシンガポールCo.(Pte)Ltd.	■ カネカマレーシアSdn.Bhd.	■ カネカエペランSdn.Bhd.
	■ カネカペーストポリマーSdn.Bhd.	■ カネカイノベティブファイバースdn.Bhd.	■ カネカアピカルマレーシアSdn.Bhd.
	■ 蘇州愛培朗緩衝塑料有限公司	■ 鐘化(佛山)化工有限公司	■ 青島海華繊維有限公司
	■ 鐘化企業管理(上海)有限公司	■ 鐘化貿易(上海)有限公司	■ PT.カネカフーズインドネシア

■印は連結子会社、■印は持分法適用関連会社であることを示します。
 連結子会社の数 62社 (上記以外に連結子会社が7社あります。)
 持分法適用関連会社の数 3社

● 会社の概要

社名 株式会社 **カネカ** (KANEKA CORPORATION)
 本店 〒530-8288
 大阪市北区中之島二丁目3番18号
 TEL (06)6226-5050(代表)
 設立年月日 昭和24年9月1日
 資本金 33,046,774,709円
 ホームページ <http://www.kaneka.co.jp/>

● 役員

代表取締役会長	菅原 公一	常務執行役員	井口 明彦
代表取締役社長	角倉 護	常務執行役員	水澤 伸治
取締役副社長	永野 広作	常務執行役員	川勝 厚志
取締役専務執行役員	中村 敏雄	常務執行役員	石原 忍
取締役専務執行役員	亀本 茂	執行役員	上田 恭義
取締役専務執行役員	田中 稔	執行役員	古吉 重雄
取締役専務執行役員	岸根 正実	執行役員	武岡 慶樹
取締役専務執行役員	岩澤 哲	執行役員	石田 守
取締役専務執行役員	天知 秀介	執行役員	落合 計夫
取締役専務執行役員	亀高 真一郎	執行役員	丸藤 峰俊
取締役(社外)	井口 武雄	執行役員	山田 和彦
監査役(常勤)	井野口 康男	執行役員	藤井 一彦
監査役(常勤)	松井 英行	執行役員	鷲見 泰弘
監査役(社外)	塚本 宏明	執行役員	牧 春彦
		執行役員	穂谷 文則
		執行役員	榎 潤
		執行役員	青井 郁夫
		執行役員	泥 克信
		執行役員	木村 雅昭
		執行役員	西村 理一

● 株式の状況

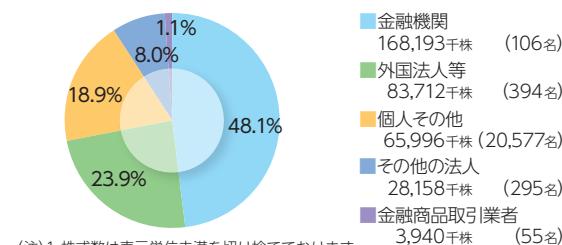
発行可能株式総数 750,000,000株
 発行済株式の総数 350,000,000株
 株主数 21,427名
 1人当たり平均持株数 16,335株

● 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	16,218	4.81
日本生命保険相互会社	15,570	4.62
株式会社三井住友銀行	15,458	4.59
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,008	4.45
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	13,517	4.01
明治安田生命保険相互会社	13,125	3.89
株式会社三菱東京UFJ銀行	11,544	3.43
三井住友海上火災保険株式会社	10,524	3.12
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	7,300	2.17
三井物産株式会社	5,543	1.64

(注) 1. 持株数は表示単位未満を切り捨てております。
 2. 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式数を減じた株式数を基準に算出し、小数第三位を四捨五入しております。
 3. 上記のほか、当社が保有している自己株式が12,957千株あります。

● 所有者別株式分布状況



(注) 1. 株式数は表示単位未満を切り捨てております。
 2. 比率は小数第二位を四捨五入しております。

● WEBサイトのご案内

<http://www.kaneka.co.jp/>

カネカ



IR情報

社長メッセージや適時開示情報・財務情報などを掲載しています。

カネカCM
 スペシャルサイト
 CM動画も
 ご覧いただけます。

街のいたるところで
 活躍している
 カネカ製品を
 ご紹介しています。



● 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年	
定時株主総会	6月	
基準日	定時株主総会	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日
公告方法	電子公告	
	http://www.kaneka.co.jp/koukoku/index.html	
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部	
	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 (お問合せ先) TEL 0120-094-777(通話料無料)	

(注)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、左記特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

〈カバーアート〉アーティスト: 曾谷朝絵
 ・タイトル: Color Waves
 ・制作年: 2014

UD FONT
 by MORISAWA

